

# 校長室だより



令和5年7月20日

No.10

3連休は夏空が広がっていましたが、梅雨前線もまだ少し抵抗しているようです。もちろん最終的には夏になるのは間違いないのですが、なんとなく「梅雨明け」と言われないと落ち着かないのは私だけでしょうか。毎年のことですが…。

夏といえば開放的な気分で飛び出したい思いもしますが、この頃の暑さではなかなかそうもいかないというのが実際でしょうか。横浜でも37℃を超え7月の観測史上最高気温がすでに出てしまいました。関東各地でも連日40℃に近い状態に達しています。40℃を超えるとセミが落ちてくると聞いたことがあります。本当でしょうか？…いったいこの天候はどうなっているんでしょう。

気象庁の定義によると、最高気温25℃以上が「夏日」、30℃以上になると「真夏日」、35℃を超えると「猛暑日」と言うそうです。以前は夏の盛りでもせいぜい30℃前後で、何日か32℃、33℃なんていう日が続くと「今年は暑いね」などと言っていましたね。20年位前までは「猛暑日」という設定はなく、暑さが目立つようになってきた2007年から気象用語として使い始めたそうです。こうした気温上昇は環境破壊や人為的な影響もあると言われてはいますが、なかなか日常ではそこまでの意識はもてず、何とかこの暑さをしのぐ方法を探すのが精いっぱいという状況が多いように思います。

少し前までは夏休みを前にして子どもたちに「家に閉じこもってゲームばかりやってはいけません。元気に外で遊びましょう」なんて伝えていましたが、今は状況によっては逆に健康を害することにもつながってしまいかねません。「こんな暑い日は外に出てはいけません。家ですごしましょう」が正解になります。それを嘆かわしいという人もいますが、生命に関わることとしてまず健康、安全の確保を考えることは大切かと思えます。そのうえで、できることや新しいやり方、楽しみ方などを探していくという方法があります。あれ？そう考えると、コロナ対応にも似ているような気がします。無理せず、安全、健康の確保を考え、実行しながら、そのうえで、できることやできる方法を探っていく…そうやってこの数年、工夫してきたの今なのかと思えます。従来のことを大切にしながらも、難しい状態になれば新しい方法や別の道を探していくような柔軟な姿勢が求められるのが現代であり、そうした力を育てるのがこれからの教育における大きなねらいになるのではないかと考えています。

とはいえ、夏です。明日から夏休みです。まず健康、安全に気を配りながらも、やっぱりこの時期にできることはやりたいですし、楽しみたいですね。ご家族でお出かけになるなど、ぜひ夏をお楽しみいただき、元気にすごしていただけるよう願っています。

7月29日（土）午後4時30分から小菅ヶ谷町内会の納涼盆踊り大会があり、本校も作業班作品の販売で参加いたします。お近くでお時間のある方はお立ち寄りください。



グラウンドの動物たちも暑そう